



38 アゼルバイジャン セヴェルナヤガス 火力発電所建設計画(1)(2)

大規模火力発電所の建設を通じて
電力安定供給、経済発展を支援

承諾額／実行額 390億3,100万円／390億400万円
 借款契約調印 1998年2月／1999年10月
 借款契約条件 金利0.75%、返済40年(うち据置10年)、
 一般アンタイド(フェーズ(2)は部分アンタイド)
 貸付完了 2004年5月／2005年12月
 実施機関名 アゼルエナジー URL: <http://www.azerenerji.com/index.php?section=1>
 アゼリガス



本事業の目的

首都バクー近郊のセヴェルナヤ地区において、石油を燃料とした既存火力発電所(150MW)を天然ガス炊きの火力複合発電所(400MW)に転換し、ガスパイプラインの建設を行うことにより、電力供給能力および効率性の向上をはかり、同国の持続的な経済成長に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) a

本事業はアゼルバイジャンの消費電力の約1割(想定受益者約90万人)を供給しており、基本需要を満たす発電所として重要な位置づけにある。故障による発電所の停止時間も完成直後の2003年から2005年にかけて約5分の1に減少し、発電所の稼働状況も安定してきている。ガスパイプラインの運営にも問題はなく、2004年以降はガス搬送量およびガス圧力は安定した状態を保っている。同国では工業部門の電力消費が1.8倍に増加しているが、バクー近郊の企業への受益者調査では、本事業の完成後、電圧の安定度が改善していることに言及があった。本事業は電力の安定供給を通じて経済活動の活性化を支える役割を担っているといえる。

本事業のサイト



本事業の発電量と電力需要の推移

	2003	2004	2005
セヴェルナヤガス火力複合発電所発電量 (GWh)	1,840	2,145	2,526
アゼルバイジャン全国電力消費量 (GWh)	22,602	22,725	23,430
全国電力消費量の推移に本事業の占める割合 (%)	8.1	9.4	10.8

る。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画と合致しており、事業実施の妥当性はきわめて高い。審査時では、電力セクターは重点投資セクターとされ、老朽化した設備のリハビリ・改修が課題となっていた。事後評価時においても発電能力の増強は今もなお取り組むべき課題となっている。

事業実施の経済性(効率性) b

本事業は、事業費については計画を下回ったものの、期間が計画を上回った(計画比127%)ため、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因としては、ガスパイプライン建設にかかわる入札手続きの遅れが挙げられる。

今後の展望(持続性) b

本事業は、財務面において電力料金回収率が低いという問題があるものの、持続性は概ね問題ないと評価される。また、2007年よりこれまで低く設定されていた電力料金が大幅に引き上げられており、財務への影響は不透明感が強い。

結論と教訓・提言

以上より、本事業の評価は高いといえる。電気料金の値上げは受益者負担の原則に沿ったもので長期的には望ましいが、料金回収率への影響も想定されるため、実施機関は料金回収率改善の取組みを継続することが望まれる。

開発途上国専門家の意見

電力セクター改革や老朽化した施設の修復が必要ななかで、本事業は2003年に稼働を開始し、発電容量の増大に貢献している。

専門家の氏名: Mr. Zeynalov Fakhraddin Gadir Ogli (民間企業)
 アゼルバイジャン国立石油化学大学電工学部卒業。道路交通省産業機械局長、電気エネルギー使用監視センター等を歴任。現在は、ゴブラル市電力エネルギー変電所主任技師。専門は電力。